

韓国経済を見る目

金顕哲(ソウル大学校国際大学院教授)

本講義のテーマは「韓国の経済を見る目」です。皆様のような日本人が韓国の経済を見る際いかなる点を念頭に置くべきかを中心に、韓国の経済について簡単にご説明したいと思います。

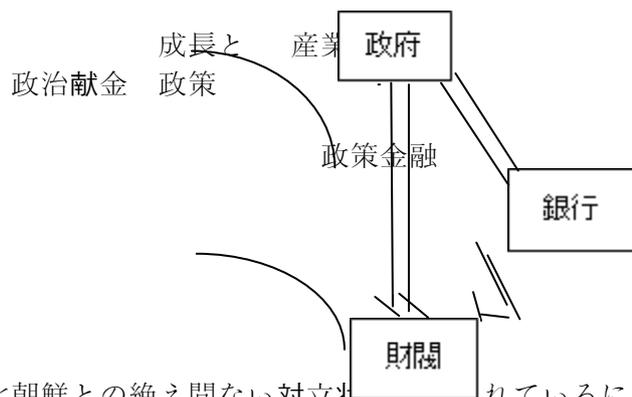
韓国の経済を見る際、第一に考えることは韓国経済は1960年代になってからようやくスタートしたことです。つまり韓国経済は40年あまりの短い歴史を持っているということです。

第二は、ゼロからスタートしたことです。日本の占領と韓国戦争などにより廃虚から始まったのです。

第三は、経済発展を推進していく時点で日本の発展モデルを大きく参考にしたことです。限られた資源を特定産業や企業に集中的に配分する傾斜発展方式をとったのです。これらの点から韓国は日本の最も忠実な追従者であったといっても過言ではありません。

【韓国型経済システム】

政府による統制



第四は、北朝鮮との絶え間ない対立状況にもかかわらず経済成長を遂げたことです。冷戦が終わった現在も世界唯一の分断国家として、北朝鮮は韓国経済の足かせになっています。北朝鮮の脅威に対応するため莫大な国防費を支出しながらも経済成長を推進してきました。

第五は、政治指導者と政府、国民が力を合わせ努力した結果、先進国の隊列に加わっ

たことです。一部の汚職や政治の非民主化、官治金融などのような弊害もありましたが、これらのセクターが一致団結した結果、40年という短い期間に現在の水準まで経済発展を成し遂げました。

第六は、持続的な経済成長が1997年の経済危機により過酷な試練を経たことです。ある学者は第二の植民地化とも規定していますが、この経済危機は過信ゆえにグローバル経済の冷酷さをしっかりと認識しなかったからでしょう。

第七は、経済危機をきっかけに40年間の成長体験の多くの部分に疑問を抱きはじめ新たな動きが生まれたことです。終身雇用制や間接金融方式がなくなり、財閥中心体制からITベンチャーのような新しい成長セクターが誕生したのです。また、日本の後を追うといった意識ではなくアメリカ式のグローバル・スタンダードを追っていく動きが主流を占めています。このような変化の延長線で初めての政権交代が行い、金大中政権と盧武鉉政権が誕生しました。

第八は、2008年後半、発生した世界的金融危機とその以降の不況がアメリカ式グローバル・スタンダードに疑問を持つきっかけにもなりましたが、1997年の経済危機の克服経験が大きく役立ち、世界の国々のなかで金融危機をすばやく克服した数少ない国の一つになっています。しかし、重なる経済危機によって所得格差が広がり、貧困問題・失業問題・少子高齢化問題・年金医療問題などの問題が山積しています。李明博政権が国家戦略を'親庶民政策'に急速に変えざるを得ないのもこのような問題があるからです。